

令和8年8月29日

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名称…デイサービス きらめき

サービス種類…地域密着型通所事業、介護予防・日常生活支援総合事業

会議開催日…令和8年8月27日（木）14：00～15：00

開催場所…詔光の里 応接室

出席者

事業所	2人	利用者	0人
利用者家族	0人	地域代表者	1人
松江市職員（介護保険課）	0人	包括支援センター	1人
知見を有する者	1人	その他	0人

【議事】

令和8年度上半期活動報告

【議題】

活動状況報告

1. 事業所紹介
2. 利用実績
3. 活動内容
4. 運営・地域についての意見交

【意見交換】

●事業所の特徴（事業所からの報告内容より）

○良い点

①食事：手造りで暖かい物を提供している。栄養士から旬のものを食べて欲しいという思いがあり、バラエティー富んだ食事メニューとなっている。形態（主食：副食）の融通も利き、その日や様態により変更が可能。

②専門職の配置：各分野の専門職が配置しており、困りごと、医療、リハビリ、認知症等相談体制が築けている。

③入浴：大きな浴槽。個浴槽が多い中、大浴槽であり、足が延ばせて良いと言われる

④男性利用者が多い。登録の半数は男性である。これも趣味の囲碁や麻雀も選択肢の一つとなっている

○改善点・課題

① 利用者人数の増えると、顧客ニーズに沿った支援がどうしても薄くなる。一人一人が意識を持って支援することが必要

② コミュニケーション技術の更なる向上。利用者が置き去りにならないように

③ 要介護者の獲得

④ 送迎職員の割り振り

●特徴について

地域有識者) 私も他の施設にボランティアに行っている。きらめきは昨年と比べると、男性の方が多くなったというイメージ。利用者の方はフリー（自由）に時間を使って過ごしているイメージであり、提供時間の過ごし方が以前より変化していると感じている。プログラムを提供しそれに沿って過ごすデイサービスやきらめきの様な過ごし方など多様化して、事業所ごとに特色がある。一長一短であると思うが自由さを求めるのもきらめきの特徴であると感じている。

地域の方) 主食など臨機応変に変更しているがどの様に対応しているか

通所) 特養併設であり主食はミキサー食やお粥等、その方の状態に合わせて都度変更している。面接時や、当日利用時に状態の変化により変更の必要性があれば栄養士と連携し変更している。又、副食も歯の調子が悪く食べにくい時も同様。時には常食と荒く刻んだものを同時に提供し、ご本人の食べ具合や呑み込み具合、食べる意欲など総合的に判断、ご本人の目で見て食べてから決めてもらえる様、支援側と利用者の両側面から判断できるように（自己決定）している。これもきらめきの特徴だと考える

●選択の自由

有識者の方) 私自身が関わっている事業所の通所において、利用後に一度中止し他の事業所を利用されるも、中止後再度利用されるなどご本人が選び、試す時代の到来と考える。選択の自由。

きらめき) 選ぶ時代に突入したと感じている。当事業の特徴でもある。登録人数の割合で男性が半分以上利用して頂いている。これは余暇活動（囲碁や将棋、麻雀）やリハビリに特化出来たためとも考える。今後ますます団塊の世代が利用され提供内容を求められる時代の到来だと感じている

支援センター) 私たちも面接時に市内のデイサービスの情報を頭に入れながら、利用者にあつた事業所を勧めるようにしている。フレイルや生活全般の事も含め考慮し案内しているので出来るだけ継続して利用して頂ければ嬉しい。きらめきは食事を頑張りながら口腔機能も取り組んでおられる。今は食事+口腔機能と合わせて取り組むことが必要であるのでしっかり取り組んで欲しい。

●若年認知症の方、男性の交流、居場所について

有識者の方) 民生委員をしていたが、男性の居場所が無く困っている。きらめきでは男性の居場所の構築が出来ている

支援センター) 大庭地区で男性の集いを開催している（場所：大庭地区老人ホーム・参加2名～6名）ので紹介したい。又、地域包括と地域の方（男性）の係わりから生まれた作品展を大庭ショッピングタウンの中の店舗を借りて開催するので出掛けて頂きアンケートに記入して頂くと励みなるのでよろしくお願いします。若年性の認知症の方の居場所がなくて困っている

きらめき) 県外のケアハウスでの事例：若年性認知症の方が入居され、中々馴染めず悩んでいた。そこで認知症カフェを開催しその入居者の方にウェイトレスとしての役割を

提供してみる。その取り組みから認知症カフェが地域や dr に広まり来場者も増えた（30 人程度）と聞いている。そこで若年性の認知症の方に特化したデイサービスの必要を肌で感じ若年性認知症方のデイサービスの開所もふくめて考えていると聞いている

●研修

きらめき（詔光の里）主催において市内の施設と合同研修を行っている

昨年は VR 体験研修を開催した。今年度は 9 月に出雲のグループホームの管理者を招き、実際に取り組んだ事例を発表してもらう。事例内容は認知症サポート医と共に協力し、本人視点を大事しながら支援したことにより BPSD が改善した事例であり『人権』と言われている中において参考になるのではないかと考えた。又、他の事業所同士交流を持つこと更なる高みをもてると感じている。

12 月にも合同の研修を計画しているので参加をお願いしたい（内容：ワークショップ）

●次回 令和 9 月 2 月頃開催予定

※事業所確認欄

☐ 活動報告についての評価を受けることができたか。	○
☐ 要望・助言等受ける機会を設けたか。	○